訪問看護ステーション幸

救急搬送を減らすカギは“訪問看護”にある

～訪問看護の機能を再確認しませんか～

株式会社幸　代表取締役
看護師　　森永　早紀

自己紹介　　　森永　早紀

- 18歳で結婚・出産・離婚を経験
- 看護師になることを決意し、看護学校へ
- 息子が小学校に上がるタイミングで訪問看護へ転職
- 息子の不登校をきっかけに起業を決意
- 2021年11月22日　株式会社幸設立
- 2022年　5月 1日　訪問看護ステーション幸開設
- 2024年11月 1日　川崎2号店開設
- 2025年　5月 1日　横浜南3号店開設
- 2025年12月 1日　横浜緑4号店開設
- 2026年 3月　1日　横浜保土ヶ谷5号店開設予定

救急搬送の現状

・高齢化の進展に伴い、救急出動や搬送件数は増加の一途をたどっている。
・特に85歳以上の高齢者における救急搬送率は顕著に上昇し、医療・介護現場に深刻な課題を突きつけている。

図2　救急自動車による救急出動件数及び搬送人員の推移

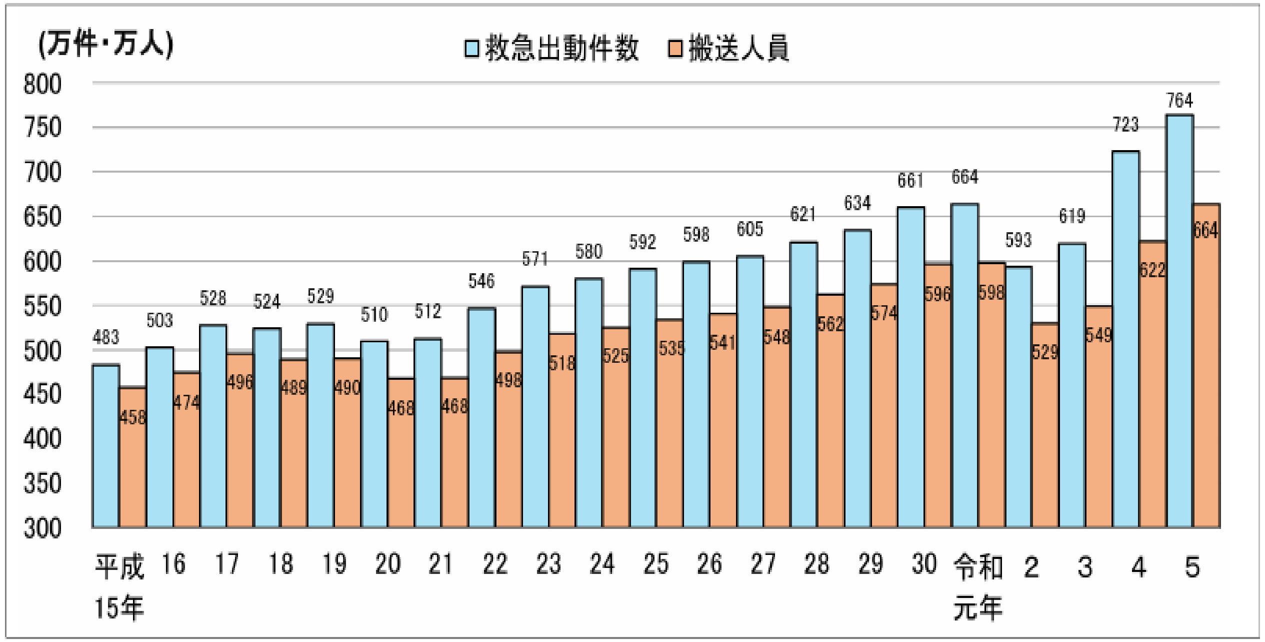
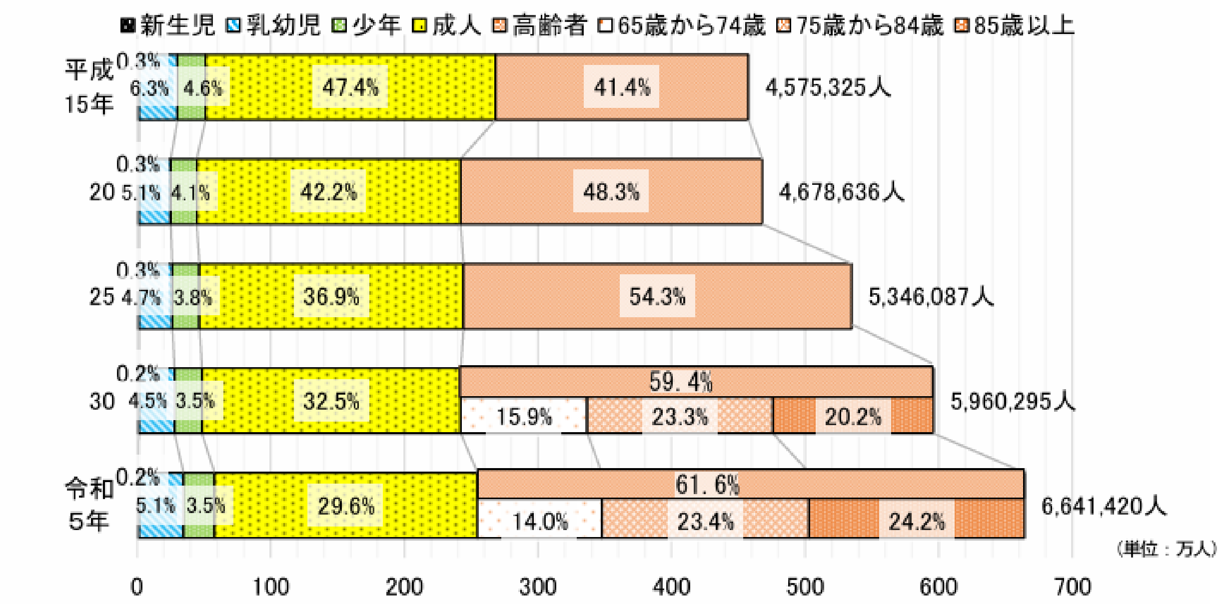


図８　年齢区分別の搬送人員と構成比の５年ごとの推移



総務省「令和６年版 救急・救助の現況」の公表より（https://www.soumu.go.jp/main_content/000991299.pdf）

疾病や急変だけでなく、孤立や生活不安など多様な要因が存在

訪問看護の強み

そもそも訪問看護とは

看護師が自宅を訪れケアを行い、在宅で過ごされる方の生活を支える

＋

＝ **24時間安心**

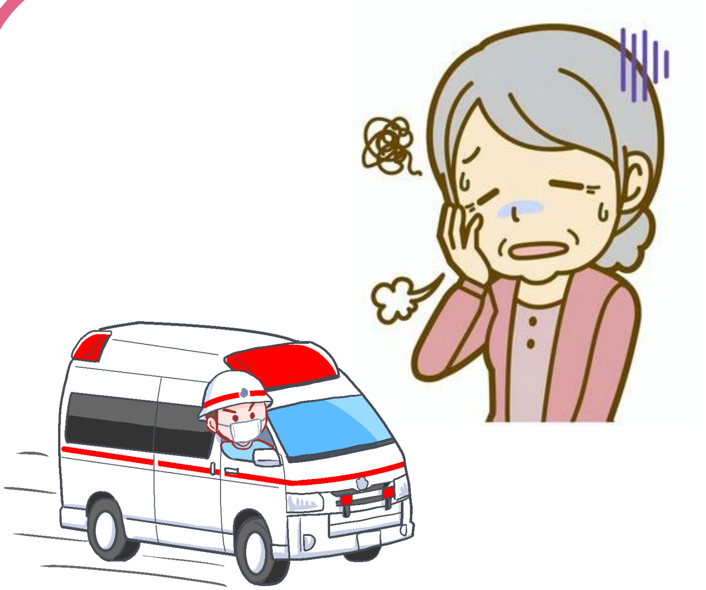
定期的な訪問に加え**「緊急電話・相談窓口」**として機能

「救急車を呼ぶべきかどうか」と迷う場面で

訪問看護の介入が適切な救急要請や搬送の判断につながっている

事例①：独居高齢者の救急要請ゼロへ

導入前



毎日救急要請

導入後

電話相談や定期観察

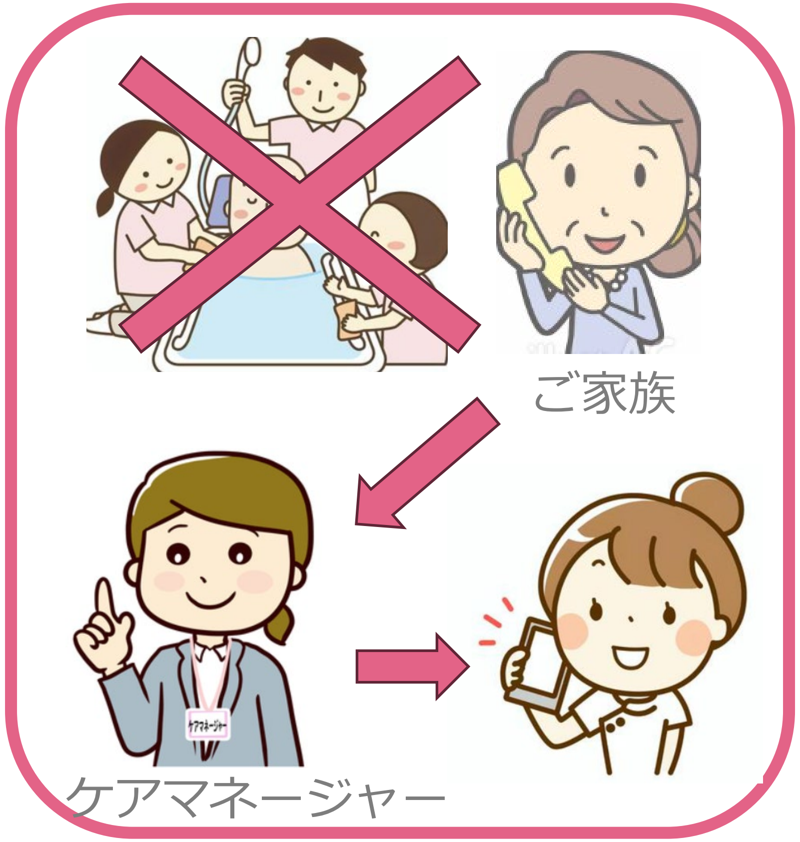
結果

救急要請ゼロ

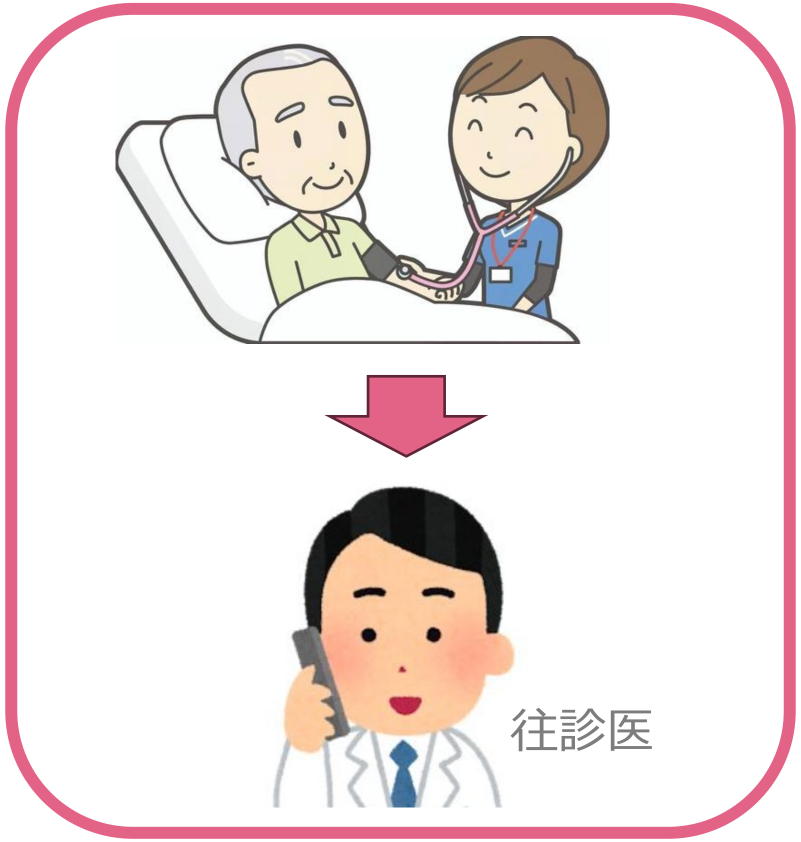
「安心して頼れる窓口」として機能

事例②：適切な救急搬送につながったケース

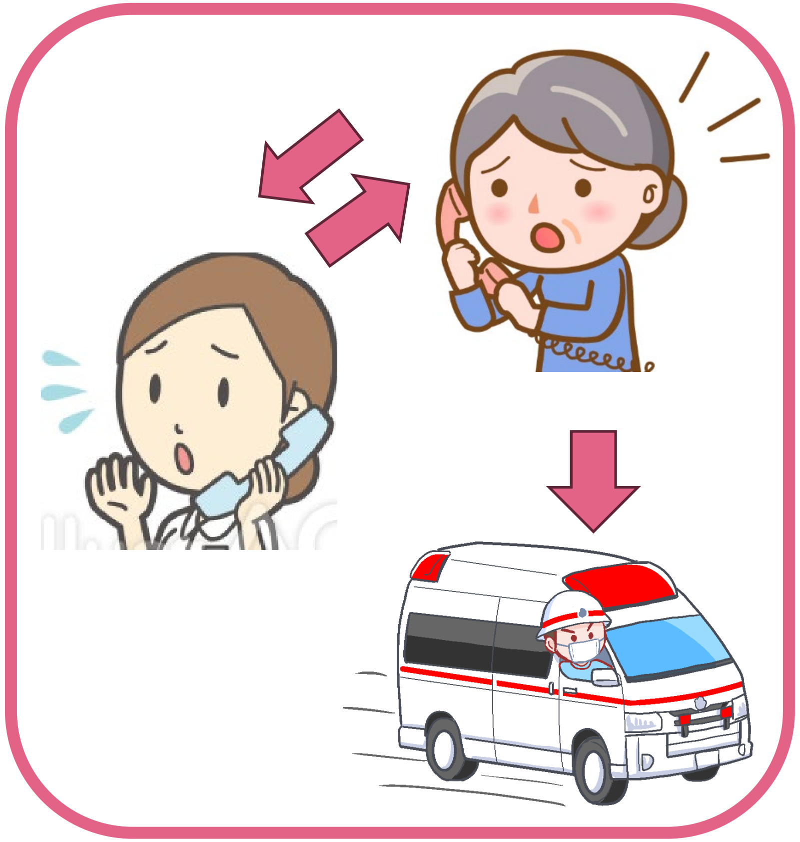
体調不良の相談



看護師が緊急訪問



救急要請指示



必要な場面で適切な救急搬送

訪問看護の価値

日常の継続的な支援

「日常を知る看護師の報告」は貴重な情報源

「安心を備えるための制度」の活用【緊急電話サービス】

- いつでも何度でも相談電話OK！
- 必要であれば訪問も可能！(別途費用)
- 要支援の方もOK！

24時間365日
電話OK

介護保険

緊急時訪問看護加算

1割負担：668円/月
（横浜市）

令和６年度介護報酬改定関連ページより

医療保険

24時間対応体制加算

1割負担：680円/月
（全国一律）

令和６年度診療報酬改定の概要【在宅(在宅医療訪問看護)】厚労省より

訪問看護の役割

＋

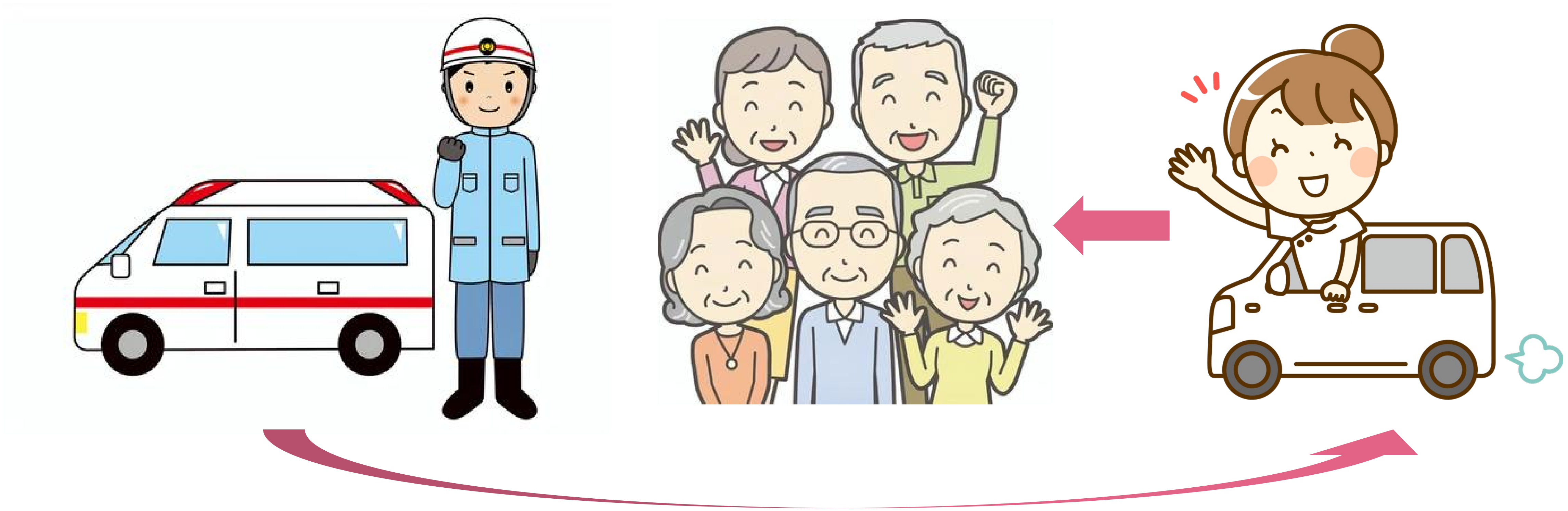
＝

24時間
安心

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすための基盤

今後の課題

消防が訪問看護を“近くて頼れる存在”となる仕組み



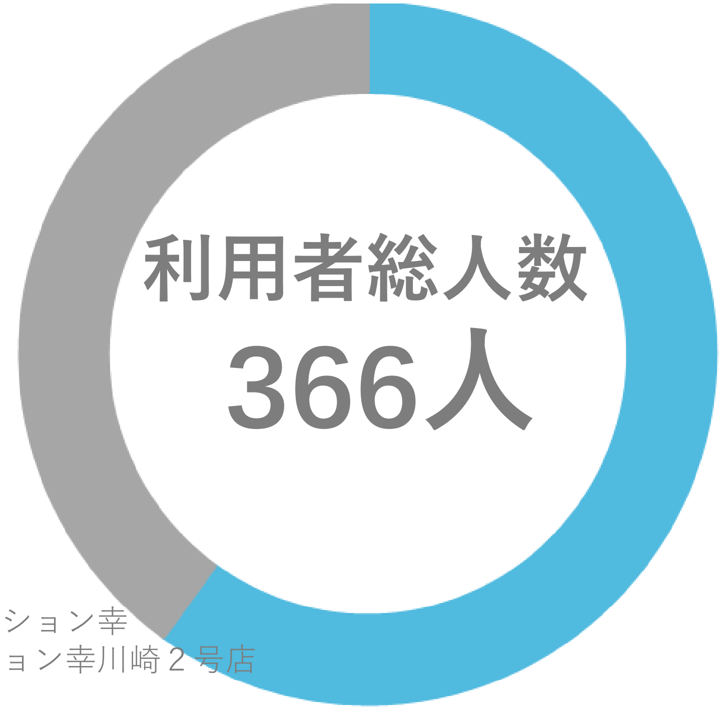
訪問看護の活用を進化

訪問看護ステーション幸　緊急電話サービス

契約者総人数

220人/月

緊急電話サービス契約者



令和6年10月
訪問看護幸ステーション幸
訪問看護ステーション幸川崎２号店
利用者データより

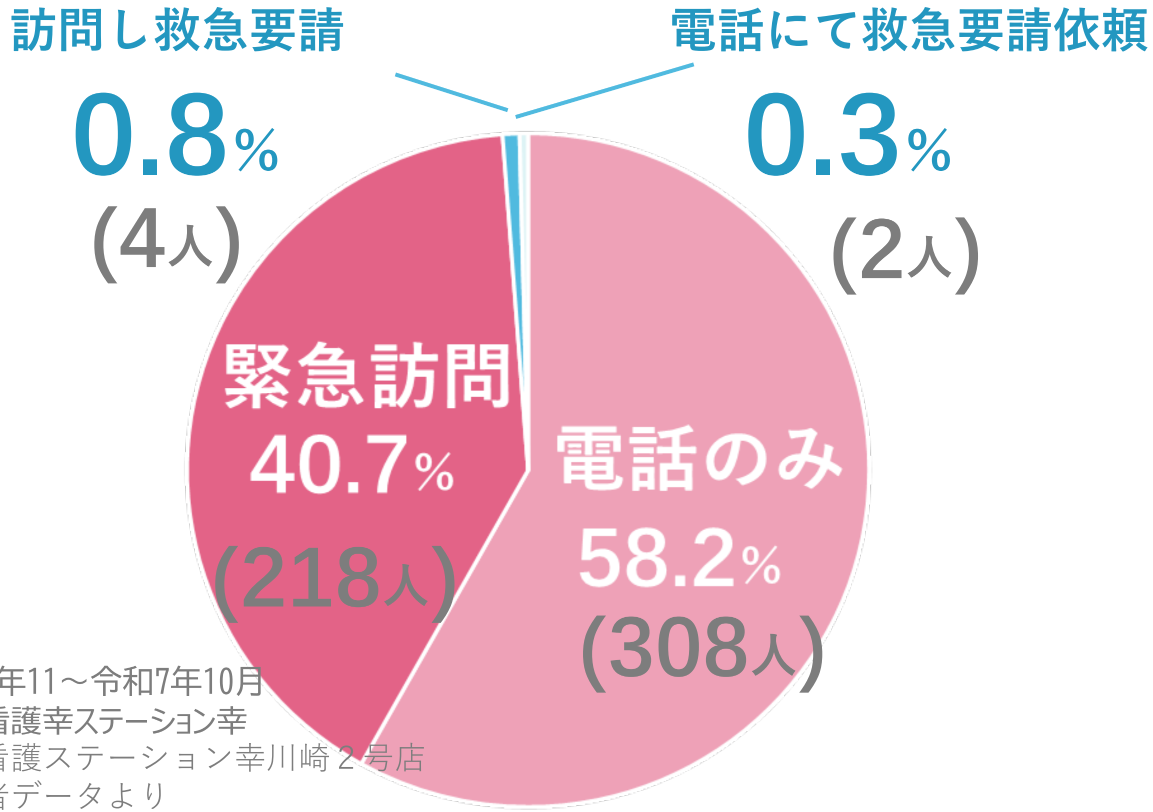
緊急加算つけている人の特徴

- ●病状変動のリスクが高い
- ●安心を買いたい(特に独居の方)

訪問看護ステーション幸　緊急電話回数

緊急電話合計回数

526回/年



令和6年11～令和7年10月
訪問看護幸ステーション幸
訪問看護ステーション幸川崎２号店
利用者データより

緊急電話の内容

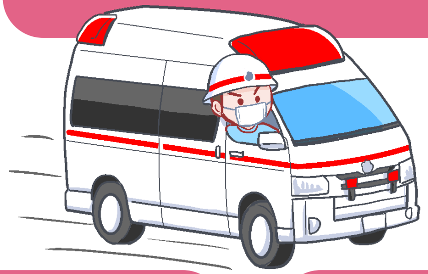
- ●痛み、呼吸苦、発熱などの相談
- ●排便コントロール（便秘・下痢・浣腸・下剤）
- ●眠れない、不安、独居不安によるコール
- ●点滴、ストマ、酸素、内服薬など医療機器や薬剤の相談
- ●転倒後の相談（受診すべきかどうか）

繰り返す人のポイント

- ●不眠、不安が強く「とにかく誰かに聞いてほしい」「来てほしい」が動機のことが多い
- ●排泄、内服、食事量などへの不安が強い
- ●終末期、看取り前後の緊急訪問が連続する方

現在

緊急電話



搬送

訪問

高齢者が増えれば
緊急電話も増える

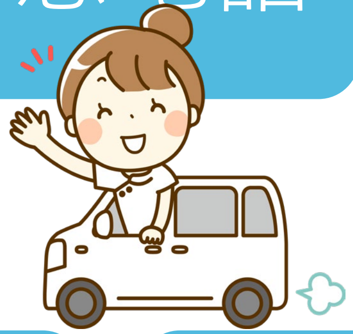
訪問看護へ接続・連携

救急搬送
1/100

今後

緊急電話

適切判断



安心窓口

緊急訪問

電話のみ

高齢者が増えても
緊急電話は適切な回数

救急搬送を減らすカギは“訪問看護”にある

～訪問看護の機能を再確認しませんか～

ご清聴ありがとうございました！